



関川村

第132号

令和5年7月31日発行

2023

議会だより

アフターコロナへ
いざ出陣!!



関川小学校大運動会

- 会議報告 2 ページ
- 脱炭素調査特別委員会 4 ページ
- 一般質問 2名登壇 6 ページ
- 村民の声 八幡良子さん 8 ページ



村のホームページでもご覧になれます。
<http://www.vill.sekikawa.niigata.jp/>

発行 関川村議会 発行責任者 議長 渡邊秀雄
編集 議会広報常任委員会 TEL (0254) 64-1494

令和5年 4月臨時会議 6月定例会議

○第3回臨時会議は4月21日に開催され、専決処分の報告2件、工事変更請負契約の締結1件、補正予算2件が上程され、原案どおり可決されました。

○第4回定例会議は6月8日から15日に開催され、議員2名が一般質問を行いました。その後、報告5件、条例の一部改正3件、補正予算2件が上程され、原案どおり可決されました。最終日には工事変更請負契約の締結2件、工事請負契約の締結1件、財産の取得1件が上程され、原案どおり可決されました。他、陳情については2件のうち、1件が採択され、もう1件が不採択となりました。

主な内容は次のとおりです。

4月臨時会議

一般会計補正予算 (第1号)

4億9340万円の追加
総額53億6140万円

◇地域振興費

3億8475万円増

(抜粋)

- ◇新エネルギー推進事業費
- ・脱炭素先行地域づくり事業補助金

4億1200万円

公共施設への太陽光PPAによる電力供給を行ってもらう事業者に対し、太陽光パネル設置に係る事業費等の補助金です。

- ・実施設計委託料

△5000万円

当初予算で、村が実施する予定の実施設計の変更によるものです。

- ・報告書策定委託料

500万円

脱炭素先行地域に選定されたことに伴う報告書策定や執行事務の委託料です。

- ・出資金

510万円

新電力会社(せきかわふるさとエネルギー株式会社)への出資金です。パートナー企業からの出資金490万円と合わせ、1000万円を出資する予定です。

◇地域振興費

- ・むらづくり総合推進事業費補助金(宝くじ助成)

730万円

上関コミュニティ、コミュニティ四ヶ字、高田集落への補助金です。

◇災害救助費

- ・湯沢温泉浴室修理補助金

900万円

8月豪雨災害で復旧が見込めない状態にある温泉を引いている個人住宅で、一般的な浴室に改修するための補助金です。

◇商工観光費

- ・工事請負費

350万円

ゆくむの濾過器、ジェットノズルの更新工事です。

◇災害復旧費

- ・修繕料

1000万円

桂・深沢などの農道復旧費です。

- ・工事請負費

3000万円

新たに対応が必要となった箇所(農地農業用施設災害復旧工事費)です。

6月定例会議

(抜粋)

一般会計繰越明許費に係る繰越額の報告

令和4年度予算のうち、令和5年度に繰り越して執行するもので、地方自治法の規定に基づき報告をするものです。

令和4年度の関川村下水道事業会計予算繰越報告

令和4年度予算のうち、管渠の災害復旧工事を村道の災害復旧工事の工程に合わせて令和5年度に繰り越して執行するもので、地方公営企業法に基づき報告をするものです。

令和4年度の関川村簡易水道事業会計予算繰越報告

令和4年度予算のうち、新潟県の河川災害復旧工事の工程に合わせて令和5年度に繰り越して執行するもので、地方公営企業法に基づき報告をするものです。

です。

一般会計補正予算(第2号)

1億4920万円の増額補正
総額55億1060万円

財産管理費

役場庁舎屋上防水改修工事費 3000万円

地域振興費

新エネルギー推進事業費 310万円

関川村入湯税条例の一部を改正する条例

村上市の荒川いこいの家の廃止に伴い、条文を改正するものです。

社会福祉総務費

価格高騰緊急支給付金 1800万円

財産の交換、譲与、無償貸付等に関する条例の一部を改正する条例

普通財産の貸付については、有償での貸し付けが原則ですが、その例外規定に「村長が特に必要があると認めるとき」を加えるもの

社会福祉施設費

設備更新工事 3600万円

い)の給水給湯配管・電気設備の更新工事費です。

児童措置費

子育て世帯支援給付金 660万円

0歳から大学生のいる世帯に対し、子ども一人につき一万円を支給します。

農業農村整備事業費

工事請負費 600万円

施設管理費

立木伐採委託料

鷹ノ巣駐車場の倒木危険個所の立木伐採委託料です。 300万円

工事請負費

ゆくむの揚場ポンプ交換工事費です。 400万円

学校管理費

庭園整備等委託料

中学校の倒木危険個所の立木伐採委託料です。 300万円

給食費

給食材料費負担金 130万円

物価高騰により、給食材料費高騰分を負担するものです。

道の駅リニューアル工事

変更請負契約の締結 変更後の請負金額 68,621,300円

変更請負契約による増

9,221,300円

契約の相手方 鈴木土建株式会社

代表取締役 鈴木 耀太

桂地区(下山川地区)農

地災害復旧工事変更請負契約の締結 変更後の請負金額 50,554,900円

変更請負契約による増 614,900円

契約の相手方 株式会社福田組 村上営業所 所長 田中 哲之

災害により9町歩の田んぼが作付けできませんでした。そのうちの2.8町歩は、

残土置場として使用してい

ます。

内須川地区地域防災がけ崩れ対策工事請負契約の締結

施工場所 関川村大字南赤谷地内 契約金額 63,800,000円

契約の相手方 株式会社丸勝建設

代表取締役 渡辺 睦郎

採択を求める陳情2件

陳情2件のうち1件が採択されました。

「30人以下学級実現、義務教育費国庫負担制度2分の1復元に係る意見書」の提出が可決されましたので国に対して送付します。



脱炭素調査特別委員会

令和4年11月に、環境省の脱炭素先行地域に当村の脱炭素先行地域づくり事業計画案が選定された事を受け、議会としてもこの事業の成功に向けた取組の促進と、持続可能な地域脱炭素の実現に向けた取組等の調査研究を目的とし、この特別委員会を令和4年12月15日に立ち上げました。

民生部門電力の脱炭素化に関する主な取組

- ① 村中心部の住宅や公共施設等に太陽光発電(1,931kW)・蓄電池を導入し、**自家消費を推進**
- ② 村内の遊休地に太陽光発電(200kW)を導入するとともに、小型風力発電(69kW)・地熱バイナリー発電(4kW)^{※1}・木質バイオマス発電(294kW)といった**多様な再エネを導入し、新設する地域新電力を介して再エネ電力を供給**
- ③ 防災拠点である村役場、村民会館、道の駅等において、**自営線と連系した地域マイクログリッド^{※2}を構築するとともに、大型蓄電池を導入し、地域新電力がエネルギーマネジメントを実施**



◎脱炭素地域づくり 計画の主な事業内容

第2回脱炭素先行地域の概要
より抜粋(環境省)

大事業なのは、
分かったけど、
難しいぞ!

民生部門電力以外の脱炭素化に関する主な取組

- ① 村内材を活用する木質バイオマス発電を導入するとともに、**廃熱や焼却灰を農家に供給することで燃料費等を削減**
- ② 村役場、村民会館に**再エネを利用する融雪設備**を導入するとともに、**温浴施設の排熱を駐車場の融雪に活用**
- ③ 先行地域内の耕作放棄地に**スマート農業施設とソーラーシェアリング(40kW)・蓄電池を導入**

カーボンニュートラル
って何だ?

2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	主な取組のスケジュール
	太陽光発電・蓄電池の導入				限られた期間で 多くの事業実施が 必要なんだ!!
	自営線・大型蓄電池設置・マイクログリッド構築				
		村公用車EV化			
	木質バイオマス発電設置				
		融雪設備設置			

◎調査期間

令和4年12月15日～
令和5年5月26日

5回の委員会開催(内3回は公開による。)及び現地視察(村上市でバイオマス発電事業を運営している(株)ATGオペレーティングサービス)を行いました。



サンデーいわふね提供

バイオマス発電の説明を受ける



現地視察の様子



◎新電力会社の設立

名称「せきかわふるさと エネルギー株式会社」

設立月日

令和5年5月16日

役員(設立時)

代表取締役

加藤 弘

(関川村長)

取締役

山名正英

(株)アドバンテック

事業内容

・電力卸売・小売事業

(※当面は太陽光PPA事業による電力販売を中心に実施)

- ・再エネ電源・熱発電事業
- ・脱炭素推進普及啓発事業
- ・関川村における地域課題の解決や地産地消の推進等に資する事業等

単なる電力会社

ではなく、

村の地域課題の解決にも尽力するという事だ!!

※まとめ

当委員会は、村の脱炭素事業がこれから本格化していくことから、今後も継続して調査研究を続けていきます。

脱炭素調査特別委員会

委員長 伝 信男

副委員長 小澤 仁

※1

バイナリー発電とは、加熱源により沸点の低い液体を加熱・蒸発させてその蒸気でタービンを回す方式である。加熱源系統と媒体系統の二つの熱サイクルを利用して発電することから、バイナリーサイクル(Binary* Cycle)発電と呼ばれており、地熱発電などで利用されている。

*Binaryとは「二つの」という意味であり、Binary-Cycleは熱サイクルを二つ利用しているということ。

※2

大規模発電所の電力供給に頼らず、コミュニティでエネルギー供給源と消費施設を持ち、地産地消を目指す小規模エネルギーネットワークのこと。

一般質問



伊藤 敏哉 議員

○「自伐型林業」の導入支援を望む

議員

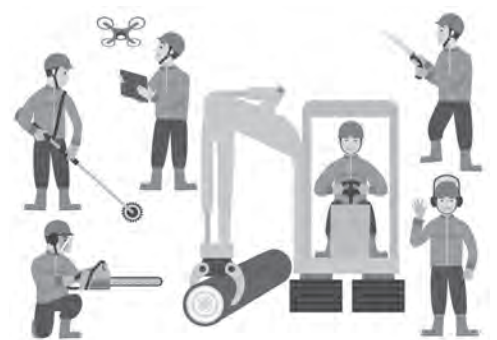
現在、一般的に行われている林業は、短伐期皆伐施業と呼ばれ、杉やヒノキを植林した後、一〜二回の間伐を経て約50年後に全て伐採し再造林するやり方。間伐の量に応じて補助金が支給されるため、必要以上の間伐が進み、後にA材になる可能性のある木材も早期に間伐されB材やC材として生産されてしまう現状。

一度に多くの木を間伐するため、重機や作業道の大型化が進み、設備投資は拡大したもののコスト増に見合った売上げ増は実現しておらず、全国の山林所有者の赤字状況は改善されていない。国有林、各県の県行造林、民有林の赤字合計は10兆円に上るといわれている。森林組合の売上げに占める補助金の比率は全国ベースで8割に達している現状である。

こうした課題を解決すると注目されている「自伐型林業」は、100年から150年以上の長期に渡りくり返し間

伐を行い、良材を残す多間伐型の林業。良材を残していくので、間伐で切る木材の本数は現行の皆伐型と比較してトータルでは減るものの、良材の蓄積量は増え、100年後には皆伐型の2.5倍以上になると言われている。付加価値の高い良材を育て、間伐したB材C材を定期的に生産するこの手法は、短伐期皆伐型の従来手法と比べ山の価値は5倍以上になると試算されている。初期費用は300〜500万円と見込まれ、伐倒用のチェーンソー、木材搬出用の林内作業車として軽トラトラックあるいは2トントラックがあれば参加でき、今後は中小企業や小規模事業者の参加が予想されている。

本村は国土調査で山林境界の明確化も進み、また、脱炭素先行地域に指定されバイオマス発電の計画もあり、村民が山林活用や林業に関心を持つてもらう好機と言える。自伐型林業の導入・支援に向けた村の取組みについて伺う。



村長

自伐型林業は初期費用が比較的安価で始められることから、新たに農業との兼業やリタイア層の方など、幅広い層の人が林業に就労できる取組みとして注目されています。しかしながら

自伐型林業は長伐期択伐施業ともいわれ、100〜150年に渡って間伐していく施業であり、大径木の木を間伐していくため、相当の技術と知識が必要と考えています。村では、まずは山から離れてしまった気持ち呼び戻したいという思いから、林業人材育成事業として、「せきかわ山の担い手育成講座」を開催し、所有山林

を適正に管理したい、森林整備の技術を学び、里山の整備を自ら行いたいといった村民を対象に講座を開催し、森林・林業に関わる人材の発掘にも力を入れています。こうした取組みを通じて、林業に参入する人材が育ち、自伐型林業に取組むことにつながれば、森林の適正管理の面、あるいは移住定住の面からも歓迎すべきことであり、バイオマス発電事業などの進捗に合わせて、自伐型林業だけでなく森林・林業全体が活性化していくような仕組みづくりを考えていきたいと思っています。

自伐型林業も様々な形態があると思いますが、村にも様々な林業に取組む形態があつていいと考えています。例えば大雪による倒木を地元の人たちがストックヤードに搬入してバイオマス発電に利用するなど、切り捨てでなく小規模でも活用につながるような多様な形で林業の施策が展開できればと考えています。

一般質問



近 壽太郎 議員

旧土沢小学校の利活用
水害復旧工事に伴う
発生土処理

議員
〈旧土沢小学校の利活用について〉

廃校活用に対しての国の補助制度があるが、この制度で旧土沢小学校校舎を補強改修し、広く村民に利用してもらい、地域の活性化につなぐ考えはないか。

村長

昭和45年建設ということから、今後の利活用状況を踏まえ、対応を検討したいと考えています。

議員

校舎と庭園を一体化し、集う場の創出が必要と考えるがこのことを進める上での具体的な方策は。

村長

廃校利用での国の補助制度は保育園や農業の加工施設など利用目的がある廃校利用について補助する制度です。今回のように広く憩える場としてだけでは国の補助制度は成り立たないのが現状です。

議員

ノーティス株式会社が校舎を借りて就労支援B型「クロ

スウォーク関川」を開設しているが、村はどのように関わっていくのか。

村長

障がい者就労の場、地域の居場所としても大いに期待をしています。代表の方の話では、今後就労者の受け入れ拡大に加え、地域に根差した事業として活動したいということとです。村としてもこのような施設の必要性は認識しているため、必要な支援を行っていきたいと考えています。

議員

地域にとつては防災の拠点である校舎を、地域の交流の場として活用する観点から「クロスウォーク関川」と地域の連携は必要と考える。村の支援を要望する。

村長

「クロスウォーク関川」の構想では校舎のみならず、グラウンドや庭園の活用などにより地域活性化に貢献したいと考えてあります。地域の皆様からご理解をいただくことが前提ですが、将来的には、施設全体の指定管理者になってもらうなど、地域に愛され

る事業所となつてもらえればと期待しています。

議員

〈水害復旧工事に伴う発生土処理について〉

今年度に入り、大型工事が始まっている。それに伴う発生土は膨大な量になると思うが、その処理について何う。現在、置き場にある発生土は仮置きなのか。安定土としてそのまま置いておくのか。

村長

農地災害に伴う発生残土については、災害査定段階から直近の村有地等に長期間保管する予定です。公共土木災害においては、「災害査定段階では村外の処分場へ搬出・処分する計画でしたが、残土に流木が混入していることから、受け入れ不可能になりました。そのため、農地災害の発生残土と同様に、直近の村有地等に長期間保存せざるを得ない状況になっています。

議員

国や県が管轄する工事に伴う発生土も村内に置くことになると思う。今後も起こり得

るかもしれない自然災害に備え、より安全性の高い処理が必要と考えるが、国や県に要望する考えは。

村長

国や県の発生残土については、仮置きをする期間が最長でも一年程度です。他の工事に転用または村外へ搬出し処分する計画であり、ご指摘の安全性の高い処理については今のところ必要ないと考えています。

議員

一年間の仮置きであれ、長期保管であれ、その期間、発生土は置かれている状況だ。いつ何時水害が起こるか分からないため、発生土が流出し、二次的災害が起こらないように責任をもって管理すべきだと思う。

総務課長

土のう袋の手前にある県の災害復旧関係の残土が8月くらいで片付く予定であり、その後対応したいと考えています。

村民の声

縁に生かされて…

や八幡良子さん
(ハツ口)



昨年春、29年勤めた村の社会福祉協議会を定年退職しました。これ迄沢山の利用者様と関わらせて頂き、人生の終盤を迎える大切なひと時を共にできた事は、自分の親にはできなかったただけにとっても有り難い事だったと感謝でいっぱいです。私は昭和36年新発田市で生まれ育ちました。母と私の二人暮らしでしたが、小学6年の夏休みに母は48才で脳出血で倒れ、私は母の実家である閔川村ハツ口の親戚の家で過ごし金丸小学校に通いました。三月、母の退院が決まり新発田に帰る事になりました。私の中

学生活は以前の生活から一変し母の介護と家事をしながら勉強をする生活となりました。辛くて投げ出してしまいたい時もありましたが、そんな私を支えてくれたのは今の親友とのお母

さんでした。この二人に出会わなければ今の私は居なかったかもしれない。彼女とは姉妹の様であり、本気で叱ってくれ優しさで包んでくれた彼女の母親は私にとっては母も同然でした。中学を卒業したら働く決めていた私はクラスメイトから「うちで働かないか」と勧められ、私は母の主治医の先生のもとで働かせて頂きながら准看護師の資格を取り、夜は定時制高校に通う忙しい日々でした。市の福祉事務所からヘルパーさんに助けて頂き、なんとか高校も卒業する事ができました。初めて勤めた職場の諸先輩は皆優しく、先生は常に患者さんに寄り添い職員を大切にし、誰からも尊敬される医師でした。ここでの経験は常に私の指針となり、人を大切にする事を教えてくれました。そして、成人式を迎えた年に夫と出会い、縁があつて21才で結婚し再びハツ口で暮らす事になり、二男一女の子宝にも恵まれました。その



頃母は特養に入所が決まり長く床に伏していましたが、平成2年65才でこの世を去りました。私はこれまで沢山の縁で生かされてきました。13才で母の介護が始まり、15才で社会人として働く事になり、数えきれないほどの方々に支えてもらってきました。感謝というひと言では足りない思っています。私は今家族に囲まれながら自然豊かな風光明媚な景色を眺めて暮らせて幸せです。受けた恩を忘れず、これから私は恩送りが出きるように生きていこうと思つています。「感謝」。

編集後記

先日、閔川小学校の運動会を拝見させてもらった。勝つて喜び負けて悔し涙、仲間を応援する大きな声。子供たちの頑張る姿を見て一喜一憂し、そして感動をもらった。一生懸命な姿を見るついでにいいですね。

昨年末までは、マスクをしたままで、誰がどの子かわからなかった。しかし、今回から感染対策の緩和により、マスクを外す子供が増え、表情が良くなる。ウィズコロナからアフターコロナへ。世の中が動き始めさらに加速しようとしている。しかし第9波の兆しが・・・。手洗い、うがい、そして感染症に負けない体力づくり。もう少し頑張るか。

議会広報常任委員会

- 委員長 加藤 和泰
- 副委員長 鈴木 紀夫
- 委員 近 壽太郎
- 伊藤 敏哉
- 小澤 仁
- 高橋 正之